



長良川鉄道を活用した新たな観光地づくり

見えてきた鉄道の観光資源化と地域の活性

長良川沿いに郡上市を走る長良川鉄道。開業して31年目に入りました。市民の生活を支える大切な足として、また、観光客の交通手段として利用されていますが、少子高齢化が進む中、中山間地域を走る長良川鉄道の経営は依然として厳しい状況が続いています。今月号では、昨年4月から運行を開始した観光列車「ながら」の利用状況を考察しながら、長良川鉄道の魅力や可能性についてまとめてみました。

目標を上回る観光列車「ながら」の利用者数

長良川鉄道は、開業してから長い間、通勤や通学、沿線住民の通院や買い物などに利用されてきましたが、今後、定期利用者の大幅な増加は見込めない状況となっています。そこで長良川鉄道側では、平成27年度に国の支援を受けて観光列車「ながら」を導入。平成28年4月27日から運行を開始しました。「ながら」は、運行を始めて以降、予約が殺到。冬期間の落ち込みはあったものの、平成28年度の利用者数は20,637人となり、目標としていた利用者数10,000人を大きく上回りました。

平成29年度も多くの利用者にご乗車いただいたしており、今後、夏休みや秋の行楽シーズンに向け前年以上の利用が期待されます。

観光客をターゲットとした鉄道経営の可能性

観光列車がテレビで取り上げられることも多くなってきました。JR九州を筆頭に、ローカル鉄道を含めて多くの鉄道会社が観光列車を導入しています。このことは、観光列車自体が観光資源化していることを明確にあらわしているといえます。長良川鉄道側の坂本桂二専務は、「観光列車の導入によって、長良川鉄道の運営は大きな転換期を迎えたと感じています。定期

観光列車「ながら」の利用状況

- ながら乗車人数 20,637人
(平成28年4月～平成29年3月)
- ながら乗車予約者 県別割合
 - ランチプラン
 - ①愛知県46%
 - ②岐阜県42%
 - ③三重県4%
 - ビュープラン
 - ①愛知県39%
 - ②岐阜県38%
 - ③東京都・三重県各4%

長良川鉄道の利用者の推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	
輸送実績(人)	通勤定期	79,860	79,920	94,920	94,980	85,440
	通学定期	350,160	337,260	373,380	363,480	353,460
	定期外	305,779	303,195	292,335	298,487	320,500
	合計	735,799	720,375	760,635	756,947	759,400

利用者を伸ばすことが困難になつている状況ですので、今後は、鉄道経営の中に観光客をターゲットにした魅力ある「商品づくり」の要素が求められてくると思つていきます。」と将来の展望を描かれています。長良川鉄道では、今年度において岐阜県の支援を受け、もう一両の列車の改装を予定しています。



▶観光客で賑わう郡上八幡駅内

地域資源に新しい価値を 吹き込んだ観光列車

長良川鉄道を利用する観光客が増えれば、当然、会社の経営改善が期待できますが、地域資源との結びつきを深めることで、地域の活性化にも大きく寄与するという効果が出てきます。観光列車「ながら」は、県産材をふんだんに使った内装な

ど、車両自体が広告塔としての機能を持っていますし、ランチ列車、スイーツ列車は、地域食材の魅力を伝える役割を果たしています。観光列車が地域資源に新しい価値を吹き込むことにより、新たな観光客を獲得できるチャンスも増えると予想されます。

長良川鉄道沿線の美化活動や、市民のみなさんへ長良川鉄道の魅力を伝える事業を継続的に行つている長良川鉄道協会の木嶋勸逸会長は、「長良川鉄道は、車窓に広がる長良川沿いの美しい自然や田園風景、そして昭和のレトロを感じさせる魅力的な鉄道です。観光列車「ながら」は、この魅力を最大限に引き出す突破口になったのではない

でしょうか。今後も、時代を先取りした企画を打ち出されることを期待しています。また、長良川鉄道協会は、美化活動や利用助成など、みなさんに親しんでいただけるように応援していきます。」と長良川鉄道への期待や協力について話されました。

リピーター獲得は観光列車 + 地域の魅力

観光列車「ながら」は、「一度は乗ってみたい列車」から「何度も乗ってみたい列車」になり

つつあります。リピーターをいかに増やしていくかは、郡上市全体の地域振興、観光振興にとつても同じ課題です。現在、観光列車「ながら」のメインターゲットは、買い物や食事に関心が高いシニアの女性ですが、長良川鉄道沿線のすばらしい景観や、駅を降りてからさらに楽しむことのできるメニューを充実させることで、より幅広い年代層が長良川鉄道を利用する可能性は非常に高いといえます。

長良川鉄道沿線の美しい自然を眺め、おいしい料理を食し、そして、地域の自然や歴史、文化、人のぬくもりなど、観光客の心に響く魅力的なメニューが長良川鉄道と結びついたとき、観光列車導入の大きな目的である「元気で持続する郡上市」が実現する。こうした想いを観光列車「ながら」は抱かせてくれました。

観光列車「ながら」利用のご案内

◎好評いただいている「ながら・ランチプラン」は、郡上八幡発・美濃太田着のながら2号がご予約いただけます。ご予約は、ぜひ、ご利用ください。

◎お問合せ、ご予約は観光列車「ながら」予約センターへ
☎ 0575・46・8021

観光列車「ながら」に寄せる期待



郡上八幡観光協会
事務局長 岡崎 玲子さん

観光列車「ながら」の運行は、市の観光振興に大きな効果を与えていると思います。また、郡上八幡駅は八幡市街地へ向かう最寄駅だけではなく、郡上市の玄関口として果たす役割も大きくなってきました。

郡上八幡観光協会では、郡上八幡産業振興公社と連携しながら、4月にリニューアルした郡上八幡駅舎を活用し、郡上を訪れる観光客のみなさんに、心のこもったお出迎えを心がけています。多くのお客さまに何度も訪れてもらえるよう、さらに充実した観光案内を展開していきたいと思つています。

長良川鉄道は、高校へ通学するため毎日利用しています。私の家からは長良川鉄道が一番便利です。車内は穏やかな雰囲気です。安心して乗ることができます。また、駅で乗り遅れそうな時もちょっと待ってもらえる優しさが、ローカル鉄道の魅力だと思います。

車窓から毎日眺める景色も、季節によって変化するので、観光客のみなさんは、この鉄道に乗るだけで満足されると思います。私たち学生の大事な足としてこれからも運行を続けてほしいので、観光鉄道にもっと力を入れるなど、私たち高校生を含め、市民みんなの盛り上がりを目指しています。



郡上高等学校 3年生
まつし 松藤 壮生さん